

受検番号	氏名

平成21年度

神奈川県立中等教育学校入学者決定検査

適性検査Ⅰ

(45分)

————— 注 意 —————

- 1 「はじめ」の合図があるまで、この検査用紙を開いてはいけません。
- 2 問題は **問4** まであり、1ページから8ページに印刷されています。
- 3 問題をよく読んで、答えはすべて **解答用紙** の決められた欄らんに書きましょう。
- 4 「やめ」の合図があったら、とちゅうでも書くのをやめ、筆記用具つくえを机の上におきましょう。

問1

次の文章を読んで、あとの(1)～(3)の各問いに答えましょう。

ユニバーサルデザインとは、だれでもが、どんなときにも使いやすい物や建物、^{かんきょう}過ごしやすい環境などをつくろうという考え方をいいます。その考え方には、下の〔資料1〕に示した7つの原則があります。

わたしたちの身の回りにも、ユニバーサルデザインを取り入れた物や場所がたくさんあります。

たとえば、シャンプーの容器には、右の〔写真1〕のように^{きざ}刻みがつけられています。こうすることで、ほかの容器と^{しかく}区別でき、^{しやうがい}視覚に障害のある人にとってもわかりやすくなるばかりではなく、^{かみ}髪を^{あら}洗うだれでもが使いやすくなります。

〔写真1〕

また、右の〔写真2〕のように^{かいたん}階段、エレベーター、エスカレーターが^{なら}並べて設置されていると、利用するだれでもが自ら選んで使うことができるようになります。

〔写真2〕

このように、はじめからさまざまな人たちのことを考えに入れて、だれでもが使いやすい物や場所をくふうしていく考え方がユニバーサルデザインなのです。

〔資料1〕 ユニバーサルデザインの7つの原則

- ① だれでも利用することができる
- ② 利用する人、それぞれに応じた使い方ができる
- ③ 使い方が^{かんたん}簡単で、だれにでもわかりやすい
- ④ 必要な情報がすぐにわかる
- ⑤ 安全に使うことができる
- ⑥ 小さい力で、つかれないで使うことができる
- ⑦ 使うときに十分な広さや大きさが確保されている

- (1) 次の〔写真3〕の水飲み場には、ユニバーサルデザインに基づいて、だれでもが使いやすくなるように、さまざまなくふうが取り入れられています。そのくふうを、〔写真3〕の中から2つ見つけ、どのようなくふうなのかを書きましょう。

〔写真3〕



- (2) 次の〔資料2〕のA，Bは、どちらも「非常口」の表示です。より多くユニバーサルデザインを取り入れているのはA，Bのどちらでしょう。記号を書き，両方を比べて，その理由を具体的に書きましょう。

〔資料2〕「非常口」の表示



- (3) あなたの身の回りから，ユニバーサルデザインを取り入れることで使いやすくなる物や場所をあげ，〔資料1〕の①～⑦の原則から1つ選んで番号を書き，その原則に基づいて，どのようなくふうをした方がよいのかを書きましょう。

ただし，この問1で示されていない物や場所をあげましょう。

問2 あきこさんたちは、神奈川県の人々の人口の変化について調べ、発表会で説明することになりました。次の〔資料1〕、〔資料2〕と〔会話文〕をもとに、あとの(1)、(2)の各問いに答えましょう。

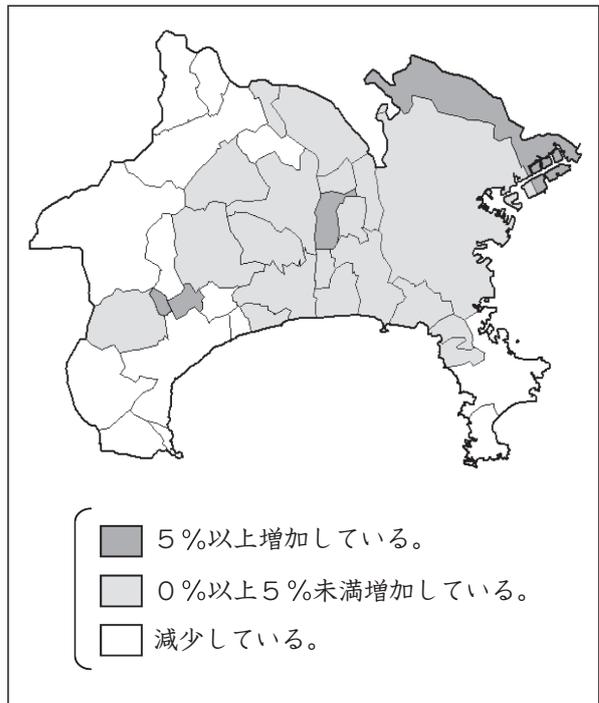
〔資料1〕

神奈川県の人々の人口の変化		
せいれき 西暦 (年)	1月1日づけの 人口 (人)	1年間に増えた 人口 (人)
1989	7,810,104	100,278
1990	7,910,382	88,365
1991	7,998,747	86,102
1992	8,084,849	63,663
1993	8,148,512	48,360
1994	8,196,872	41,968
1995	8,238,840	13,825
1996	8,252,665	42,839
1997	8,295,504	45,333
1998	8,340,837	57,499
1999	8,398,336	47,838
2000	8,446,174	57,324
2001	8,503,498	71,874
2002	8,575,372	64,293
2003	8,639,665	58,055
2004	8,697,720	51,011
2005	8,748,731	52,901
2006	8,801,632	46,534
2007	8,848,166	62,090

※ 「1年間に増えた人口」は、翌年の1月1日づけの人口との差です。

〔資料2〕

2000年から5年間に神奈川県の各市町村で人口の増えた割合



つくいぐん さがみほらし
(津久井郡の4つの町が相模原市になる前の図)

※ 人口の増えた割合は、2000年と2005年の1月1日づけの人口をもとに計算したものです。

〔資料1〕、〔資料2〕は、ともに「神奈川県人口統計調査結果」より作成

〔会話文〕

あきこさん 「今度の発表会で、わたしたちが調べた〔資料1〕と〔資料2〕をもとに、神奈川県の人口の変化について、どんな内容を説明しますか。」

たけしさん 「ぼくは、はじめに、〔資料1〕を使って、1989年1月1日から2008年1月1日までに、神奈川県の人口が、およそ何万人増えたのか説明します。次に、1年間に増えた人口が最大と最小であった年を示して、それぞれ増えた人口が何人であることを説明します。」

あきこさん 「なるほどね。では、かずおさんはどうですか。」

かずおさん 「ぼくは、2000年からの5年間について、〔資料1〕から、神奈川県の人口は、平均 人ずつ増え続けていたにもかかわらず、〔資料2〕をもとに県内の市町村別に見ると、 ということを説明します。」

あきこさん 「それも大切なことね。さっそく発表に向けて準備していきましょう。」

(1) たけしさんの考えた説明の内容について、〔資料1〕を使い、具体的な数などを示して書きましょう。

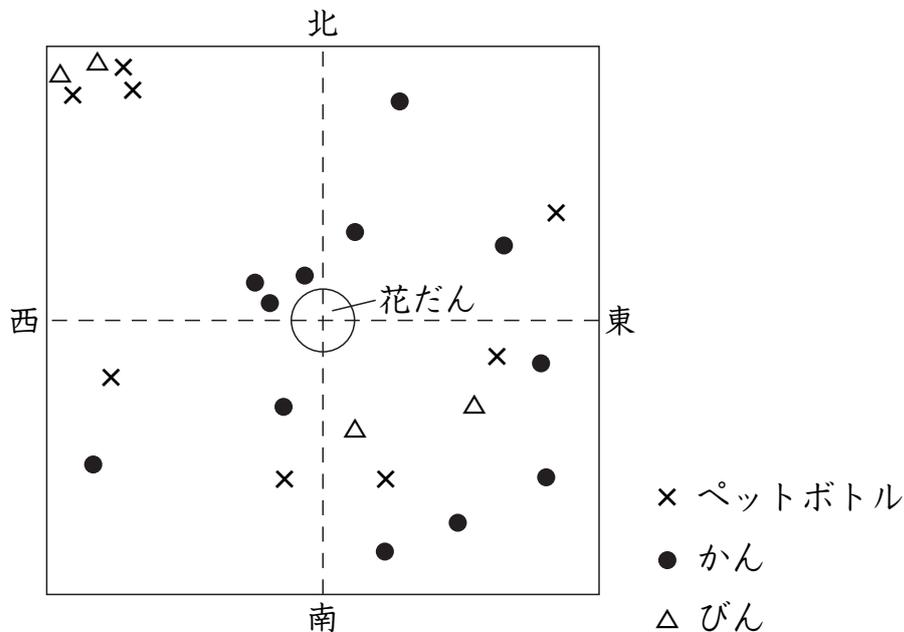
(2) かずおさんの発言にある にあてはまる数を書き、 にふさわしい内容を書きましょう。なお、数については、小数第1位をししやごにゆう四捨五入して、整数で書きましょう。

問3 かずおさんたち4人は、「ごみとリサイクル」について考えるため、花だんを中心に公園を4つの正方形に区切り、それぞれの場所を分担してペットボトル、かん、びんがどのくらい落ちているかを調べました。
 次の〔資料1〕,〔資料2〕は、調べた結果をまとめたものです。あとの(1)～(3)の各問いに答えましょう。

〔資料1〕公園に落ちていたペットボトル、かん、びんの種類と数

担当した人	種類と数
かずおさん	ジュースのペットボトル1本, お茶のペットボトル1本 ジュースのかん2本
さやかさん	ジュースのペットボトル1本, お茶のペットボトル2本 ジュースのかん1本, コーヒーのかん1本, お茶のかん1本 ジュースのびん2本
たけしさん	ジュースのペットボトル1本 ジュースのかん1本, コーヒーのかん1本, お茶のかん1本
あきこさん	お茶のペットボトル2本 コーヒーのかん2本, お茶のかん2本 ジュースのびん2本

〔資料2〕公園にペットボトル、かん、びんが落ちていた場所



(1) 〔資料1〕,〔資料2〕から、さやかさんが担当した場所について、ほかの場所と比べるとわかる特色を2つ、それぞれ30字以内(句読点をふくむ)で書きましょう。

(2) 落ちていたペットボトル、かん、びんの全体の本数に対するそれぞれの割合を百分率(%)でもとめ、次の□の注意をよく読んで、円グラフに表しましょう。

- 1 百分率(%)が小数となるときには、小数第1位を四捨五入ししゃごにゅうしましょう。
- 2 割合の大きい順に区切り、線はていねいに引きましょう。
- 3 円グラフの中に、それぞれの割合をわかりやすく書き入れましょう。

(3) 次の〔会話文〕を読んで、あとのア～ウの各問いに答えましょう。

〔会話文〕

かずおさん 「〔資料2〕を見ると、同じ面積の4つの場所に分けたのに、落ちていた本数にずいぶん差があるね。」

あきこさん 「そうかしら、〔資料2〕を見て気がついたのだけれど、こうやって、ア 2本の直線を引いて同じ面積の4つの場所に分け直すと、4か所とも同じ本数になるのよ。」

かずおさん 「本当だ。いろいろな見方をすることが大切なんだね。でも、ペットボトル、かん、びんは、リサイクルするために回収かいしゅうをしているのだから、ごみとして捨すてられないようにするくふうができないかな。」

たけしさん 「ある国では、商品の値段ねだんに、あらかじめ一定の金額を加えて売って、容器を返きゃくすると返金をするしくみがあり、日本でも一部では行われているそうだよ。」

かずおさん 「それはいいしくみだね。お金が返ってくるのならば、イ だろうな。」

さやかさん 「でもね、商品を買うわたしたちにとってみると、そのしくみには、ウ という問題があると思うわ。」

ア あきこさんの発言にある下線部アでは、〔資料2〕をどのように分け直したのでしょうか、2本の直線をていねいに引きましょう。

イ かずおさんの発言のイにふさわしい内容を書きましょう。

ウ さやかさんの発言のウにふさわしい内容を書きましょう。

問 4

次の詩を読んで、あとの(1)、(2)の各問いに答えましょう。

いちがつ にがつ さんがつ……

谷川俊太郎

(著作権上の都合により省略)

谷川俊太郎少年詩集「どきん」より

(1) この詩は、1月～12月の順番に書かれていて、各月には、次の①～④のような表現の持ちようがあります。

- ① すべてひらがなで書かれている。
- ② 2行からなっている。
- ③ 4つの「言葉のまとまり」からなっている。
- ④ 最初の「言葉のまとまり」には「月」が示されている。

この①～④のほかに、各月に共通する、言葉のひびきやリズムを感じさせる表現の持ちようを2つ見つけ、それぞれ、詩の1月の部分を用いて、次の「書き方の例」のように書きましょう。

〔書き方の例〕 (③の場合)

見つけたところがわかるように線で囲み、説明を書きましょう。

(著作権上の都合により省略)

(2) 1月～12月の中から「月」を1つ選び、次の □ の注意をよく読んで、あなたの日常の生活に基づいた作品をつくって書きましょう。また、その作品が、日常の生活のどのような場面なのかを具体的に書きましょう。

- (1)で示した①～④の表現の持ちようと、あなたが(1)で答えた表現の持ちようをすべて用いてつくりましょう。
- 「月」以外、この詩で使われている「言葉のまとまり」は使ってはけません。

※これで問題は終わりです。